

# 有明海のさかなたち

## — 魚類のゆりかご(成育場)への科学的再考 —

講演：木下 泉 氏

高知県安芸漁協顧問 (<http://www.jf-aki.jp/pg397.html>) 高知大学名誉教授

有明海の正式呼称は、実は「島原湾」であり、有明海はこの湾の北部の水深 10 m 前後の水域に過ぎない。しかしながら、我国ではここでしか生息しない固有魚種(特産魚種)であり大陸遺存種が 8 種(エツ、アリアケシラウオ、アリアケヒメシラウオ、ヤマノカミ、ハゼクチ、ムツゴロウ、ワラスボ、デンベエシタビラメ)確認されており、いずれも、北部河口域を「ゆりかご」(成育場)としている。それらの生活様式は様々であり、有明海に注ぐ河川によっても異っていることが、最近の研究によって明らかになってきた。すなわち、一河川が一つではなく、有明海全体が一つなのである。これは、まさに生物多様性であり、十分に明らかにされないまま、諫早湾潮受堤防、筑後大堰や佐賀空港干拓などの巨大事業に呑み込まれてしまった。今回、これら有明海の魚たちの現況を新しい知見を交えて紹介したい。



シーボルト博士が観て、川原慶賀・画伯が描いた有明海の固有魚種たち 左上:エツ, 左下:ムツゴロウ, 右上:ハゼクチ, 右下:ワラスボ.  
(山口隆男(1996)より転載)

場 所：鹿島市大字音成甲 4427-5 干潟交流館 なな海

実 施：2024 年 1 月 14 日 (日) 13:30~15:00

参 加：無料 予約不要

主 催：鹿島市干潟交流館 なな海

問い合わせ：0954-60-5028 ; [kouryu01@po.asunet.ne.jp](mailto:kouryu01@po.asunet.ne.jp)